

ゴージャスお宝鑑定家〜「う〜ん、  
ゴージャス！」③

---

オープニングシーン

【シーン①：剛田質店の店内】

（所要時間：20分）

【店内、ゴージャスなインテリアが所狭しと並ぶ。ドアのベルが鳴り、白金が焦った様子で飛び込んでくる。】

白金（息を切らしながら）

「店長！大変です！また……また来ました

よ……」

【白金が急いでカウンターに向かうが、剛田は動かず、まるで動きのない彫像のように座っている。】

白金（焦って何度も後ろを振り返り）

「店長！大変なんです！あの人、また……また意味不明な物を持ってきたんです！」

剛田（ゆつくりと、優雅にティーカップを持ち上げて一口飲む）

「うん……この紅茶、ゴージャスだね。」（目を細めて、満足げにため息）

白金（頭を抱えながら）

「いや、紅茶もいいけど、店長！今すぐにでも見て下さいよ！金箔に包まれた……何か怪しいものを持ってきてるんです！」

【剛田がゆつくりとカップを置き、椅子から立ち上がる。】

剛田（優雅に、ゆつくりと歩み寄りながら）

「白金君、慌てることはない。ゴージャスがやってくるには、時にはこうした予兆が必要なのだ。」

【白金がまだ懸命に振り返りながら】

白金（焦りながら）

「予兆も何も、あれは絶対にただの……」

【ドアが開く音と共に、お客様が登場。】

お客様（自信満々に金箔の瓶を手に持ちながら）

「こんにちは！私は、これこそが『家宝』でございます。」

白金（声を荒げながら）

「家宝！？何ですかそれ、味噌の瓶に金箔がついてるだけで家宝！？」

剛田（瓶を受け取ると、無言でじっと眺める）

「うーん……ゴージャス。」（手に取ると、瓶を回転させながら）

「金箔がまるで星々のようだ。宇宙の輝きを感じる。」

白金（耳を疑うように）

「ええ！？これがゴージャス！？味噌がゴー  
ジャスって、どう考えてもおかしいですよ！」

お客様（にっこりと）

「はい、これは代々伝わる金箔味噌でござい  
ます！」

【白金があきれ顔で目を見開き、頭を抱えな  
がら】

白金（つぶやくように）

「代々伝わる？いや、でも味噌に金箔……な  
んか違う……」

【剛田がお客様に微笑みながら】

剛田（優雅に瓶を持ち上げて）

「お客様、この金箔の美しさこそ、まさにゴー  
ジャスそのもの。普通の味噌など目じゃな  
い。」

白金（混乱しながら）

「でも、これ本当に食べるんですよね？こんなもの……」

剛田（白金の疑問を軽くかわし、瓶をさらに観察しながら）

「白金君、君にはまだゴージャスの真髄がわからない。」

白金（つぶやく）

「確かに、店長はゴージャスの定義がわからな  
いんですけど……。」

---

## シーン2：金箔味噌の真価

（所要時間：25分）

【お客様が金箔味噌の話を続け、剛田が味噌をさらに分析しようとするシーン。】

お客様（さらに説明しながら、金箔味噌をテーブルに置く）

「この味噌、ただの味噌じゃありません。金箔を使っていることで、味が深みを増し、家庭の味噌を超越するんです！」

白金（しばらく黙って、味噌を見つめながら）  
「深み……いや、金箔って……こんな味噌に使うものじゃないですよ！」

剛田（瓶を受け取りながら）  
「白金君、君は味噌の魅力を知らない。だが、ゴージャスな味噌には、必ず何かがある。」

【剛田がゆっくりと瓶の蓋を開け、香りを確かめるシーン。】

剛田（鼻を近づけ、香りを感じる）

「うーん……この香り、まさにゴージャスの予感。」

白金（目を見開きながら）

「店長、いくらなんでも……香りだけでそんなに騒がなくても！」

剛田（微笑みながら）

「白金君、ゴージャスは香りからも感じ取るものだ。」

白金（手を挙げて反論しようとする）

「香りは香りでも、味噌に金箔を載せただけで……」

お客様（満面の笑みで）

「さあ、お試しください！金箔の力で、驚きの味わいが広がりますよ！」

白金（不安げに、でも店長に従ってスプーンを手取る）

「いや、でもこれ、本当にゴージャスなんですか？」

剛田（にっこりと微笑んで）

「食べてみて初めてわかるゴージャスがあるんだよ、白金君。」

【剛田が優雅にスプーンを使い、一口味見。】

剛田（満足げに目を細めながら）

「うーん、ゴージャスだ……この味噌、まるで黄金の味だ。」

【白金がスプーンを取って、一口食べる。しばらく沈黙が続く。】

白金（目を見開き、驚きながら）

「な、なんだこれ……本当に美味しい……！」

剛田（ウィンクしながら）

「だろう？ゴージャスは、君の想像を超えるものだ。」

白金（しばらく黙ってから）

「でも、味噌なのに金箔の味が広がるなんて、驚きました。」



剛田（優雅に再び紅茶をすすりながら）

「ゴージャスとは、ただの物理的な価値ではない。魂の深さを感じることが出来るものだ。」

白金（しばらく黙って考え込む）

「いや、でもこれは……ほんとに食べていいんですか？」

---

シーン③：価格交渉

（所要時間：20分）

【お客様が価格を提示し、白金が驚き、剛田が冷静に受け入れるシーン。】

お客様（にっこり笑いながら）

「では、200万円でお譲りしますよ。」

白金（驚きのあまり、声が裏返る）

「200万円！？ちょっと待ってくださいよ、そ

れは……味噌ですよ！味噌！」

剛田（真顔で）

「300万が妥当だ。」

【白金が頭を抱えながら、慌てふためいているシーン。】

白金（ひとしきり叫んだ後に）

「なんで！？金箔付きの味噌に300万！？」

剛田（お客様に微笑みながら）

「うーん、300万、それが妥当なゴージャス価格。」

---

## エンディング

【剛田が金箔味噌をガラスケースに置き、光を当てながらゴージャス！】

## シーンごとの詳細ポイント

### 1. オープニングシーン

- ポイント…最初の衝撃的な展開で視聴者を引き込む。白金の焦りと剛田の余裕のある態度の対比を大きく描写。お客様の登場時に金箔味噌が物理的にゴージャスに映る描写を増やし、視覚的なインパクトも強調。

## 2. 金箔味噌の真価

- ポイント…味噌の評価が進む中で白金と剛田のリアクションを延ばし、二人のやり取りに笑いが発生する場面を多く描写。剛田が実際に味見をするシーンに時間をかけて、白金の驚きや反応を細かく描写。

## 3. 価格交渉

- ポイント…お客様が価格を提示した際に、白金の反応を強調。高額な金額に対して、白金がオーバーリアクションでツッコむところがコ

メデイの中心。剛田の冷静さとの  
対比でギャグが強調される。

#### 4. エンディング

- ポイント…最後のセリフで、白金が学んだ  
ことや剛田の哲学に少し感銘を受けつ  
つ、ちょっとした余韻を残して終わる。ゴ  
ージャスが価格だけでなく、感覚や価値  
観にも関連していることを悟る展開。